

# 令和2年 **4**月の**優しさ**通信

## 目次

- (1) 🏠 要介護度 ばらつく認定 独自の裁量 住民に見えず
- (2) 🏠 認知症保険の注意点 要介護認定ないと給付なしも
- (3) 🏠 免許返納 最多60万人 昨年 高齢者事故 影響か
- (4) 🏠 認知症 家族出金しやすく 全銀協、預金扱い巡り通達
- (5) 🏠 死亡事故 75歳以上の運転手 「認知機能問題あり」4割



## 今月の福祉用具－機能的衣服とデザイン 松葉づえ使用の場合



- (1) 🏠 要介護度 ばらつく認定 独自の裁量 住民に見えず

### 全国一律の判定、99%の自治体が変更

\*要介護度の認定を巡り、市区町村の99%が全国共通の判定を2次審査で変更。

- ・変更比率は自治体でゼロから41%までばらつき。
- ・同じ身体状態でも利用できるサービスが地域で異なることとなります。
- \*要介護度は全国共通の調査票に基づきコンピューターで判定。その後、個別事情を考慮し、医師などで構成する介護認定審査会が決めます。
- \*問題は独自基準が明文化されておらず、審査も非公開である点。
- \*国は2018年度、要介護度を維持、改善した自治体に交付金を手厚く配る制度を設けました。

### 要介護度の認定 7段階 サービス内容に違い

\*介護保険を利用したい人が、どのくらいサービスが必要かを判定する仕組み。

- \*サービスを受けたい高齢者は、まず市区町村に要介護度の認定を申請。
- \*自治体職員が申請者と面談し、自律性や認知機能に関する調査票を作成。コンピューターが分析し、介護の手間に応じて判定するのが1次審査。
- \*医師らで構成する介護認定審査会が主治医の意見書などを参考に最終判定します。

：認定者数は2018年度末時点で658万人と、この10年で4割ほど増加。

要介護度の目安と認定者数（2018年度末時点）		
区分	要介護度の目安	認定者数（万人）
要介護5	寝たきりの状態。全面的な介助が必要	60
要介護4	生活全般に介助が必要。徘徊も	80
要介護3	自力で歩行が困難。排泄が一人でできない	87
要介護2	身のまわりのこと全般に見守りや手助けが必要	114
要介護1	歩行や立ち上がりが不安定で支えが必要	132
要支援2	片足で立つなど複雑な動作に支えが必要	93
要支援1	立ち上がりなど一部の生活機能がやや低下	93

（2020年3月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

## (2) 認知症保険の注意点 要介護認定ないと給付なしも

- \* 「認知症保険」：認知症と診断されて介護が必要になった場合に保険金。
- \* 2016年以降、生命損保各社が相次ぎ発売。
- \* 一定以上の介護認定が必要で、一般的には要介護2以上。
- \* 認知症をはっしょうしたものの、自立した生活が送れる人などは保険が給付されない場合もあります。
- \* 要介護状態の人の年齢層で、80歳以上の割合は2001年には58%でしたが、2016年には69%に。

介護が必要となった原因

1位	2位	3位
認知症	脳血管疾患	高齢による衰弱
18.0%	16.6%	13.3%

（2020年3月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

### (3) 免許返納 最多 60 万人 昨年 高齢者事故 影響か

\*2019年に全国で運転免許を自主返納したドライバーは601,022人。前年から179,832人増で過去最多。

\*このうち75歳以上の高齢者は350,428人（前年比58,339人増）で全体の6割近く。

・2019年は2014年（96,581人）の4倍近くに増加。

\*2019年に75歳以上のドライバーが過失の最も重い「第1当事者」となった交通事故は401件。死亡事故全体に占める割合は14.4%。

（2020年3月10日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）



### (4) 認知症 家族出金しやすく

#### 全銀協、預金扱い巡り通達 戸籍や使途 書類提示で

\*認知症患者の預金を家族が引き出しやすくなるよう、全国銀行協会は各銀行に通達。

\*戸籍抄本などで家族関係が証明され、施設や医療機関の請求書で使途が確認できれば、口座からお金を引き出せるよう業界統一の対応を促します。

\*本人の意思で引き出すのを原則としつつ、本人が意思を明確に示せない場合でも家族関係が確認でき、施設からの請求書などで使途が確かめられれば、引き出しや振り込みに柔軟に応じます。

\*2014年時点で金融資産全体の7割を60歳以上の世帯が保有。

\*認知症患者が保有する金融資産額は、2030年には215兆円に達する見通し。

（2020年3月11日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）



## (5) 死亡事故 75 歳以上の運転手

「認知機能問題あり」4割

\*2019年に交通死亡事故を起こした75歳以上の運転手で事故前に認知機能検査を受けていた376人のうち、「認知機能に問題あり」と判定されたのは39.9%。

\*認知機能に問題がなくても運転技能が衰えているケースがあるとみられ、警察庁は実際の運転を測る運転技能検査（実車試験）を2022年にも導入。  
（2020年3月31日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）



## 今月の福祉用具－機能的衣服とデザイン

### 松葉づえ使用の場合

\*一般的な衣服は、両脇に松葉づえを当てるため裾がずり上がってしまうことから、腋にマチを入れるなど、脇の下に工夫が必要になってきます。

\*松葉杖をついた状態で前進するとき衣服は脇につれあがり、前の打ち合わせが開いてしまいますので、ゆとりがあるものを選択します。

\*雨天の外出時には傘がさせないので、レインコートの需要が多くなります。

（参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキスト・介護用品カタログより）

